

「8つの観点」及び評価基準（平成27、28年度）

※評価基準については平成28年に提示

領域	項目	S	A	B
観点1	学校の喫緊の課題を十分検討したうえで、課題と重点目標を対応させること	・前年度の学校評価や各種調査結果等から根本原因を分析し、ミドルアップ機能を活かしながら喫緊の課題を明確にした上で、課題解決に向けた重点目標を絞り込んで設定しており、重点目標は喫緊の課題に対応した内容としている。	・前年度の学校評価や各種調査結果等から根本原因を分析し、喫緊の課題を明確にした上で、課題解決に向けた重点目標を絞り込んで設定しており、重点目標は喫緊の課題に対応した内容としている。	・前年度の学校評価や各種調査結果等を分析し、喫緊の課題を明確にした上で、重点目標を絞り込んで設定している。
観点2	取組指標は、実際に取り組むことにより、児童生徒が変わり重点目標達成に近付くことがイメージできる具体的なものとする	・取組指標に「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを十分に書き込み、短期の検証・改善が可能で、重点目標達成に近づく妥当な指標設定となっている。	・取組指標に「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを可能な限り書き込み、短期の検証・改善が可能で、重点目標達成に近付くことがイメージできる具体的なものとしている。	・取組指標に「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを可能な限り書き込み、短期の検証・改善が可能な具体的なものとしている。
観点3	「学校評価の4点セット」（重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標）が、全ての教職員に共有されるよう、会議での取り上げ方を工夫すること	・「学校評価の4点セット」をミドルアップ機能を活かして策定した上で、年度当初の職員会議等で説明するとともに、運営委員会や分掌会議等で定期的に取り上げるなど、全教職員への意識付けを図る工夫をしている。	・「学校評価の4点セット」について、年度当初の職員会議等で説明するとともに、運営委員会や分掌会議等で定期的に取り上げるなど、全教職員への意識付けを図る工夫をしている。	・「学校評価の4点セット」について、年度当初の職員会議等で説明するとともに、運営委員会や分掌会議等で取り上げるなど、全教職員への意識付けを図る工夫をしている。
観点4	検証に当たっては、①取組指標に基づく取組状況をまず確認し、その上で、②その取組により重点目標達成に近付いたかを検証し、年度の中でも取組指標、重点的取組、達成指標を改善していくこと	・客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認を的確に行った上で、指標の妥当性を検証しつつ年度の中でも改善方策を検討している。その積み重ねにより、検証改善サイクルを確立し、持続的・発展的な教育活動を実現している。	・客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認を的確に行った上で、指標の妥当性を検証しつつ年度の中でも改善方策を検討している。	・取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認を的確に行っている。
観点5	目標管理制度と能力評価制度の連動、及び学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動により学校の組織力の向上を図るといった教職員評価システムの趣旨を一層徹底すること	・管理職等が教職員に教職員評価システムの趣旨や仕組みについて十分周知するとともに、学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動について、管理職・主任等が適時適切に指導・助言を行っている。その上で、適切に目標管理制度と能力評価制度を連動させることにより、学校の組織力向上や教職員の資質向上を実現している。	・管理職等が教職員評価システムの趣旨や仕組みについて教職員に十分周知するとともに、学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動について、管理職・主任等が適時適切に指導・助言を行っている。	・学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動の在り方を含め、管理職等が教職員評価システムの趣旨や仕組みについて教職員に周知している。
観点6	それぞれの重点目標の達成を担う主任等を明らかにし、責任を与えること	・重点目標の達成を担う主任等を「学校評価の4点セット」や組織図、校務分掌表等に明記しており、当該主任等が機能するよう、チーム制や部会制を組織するなどの工夫をしている。また、当該主任等が取組の実施・検証・改善を通じて責任を果たしている。	・重点目標の達成を担う主任等を「学校評価の4点セット」や組織図、校務分掌表等に明記しており、当該主任等が機能するよう、チーム制や部会制を組織するなどの工夫をしている。	・重点目標の達成を担う主任等を「学校評価の4点セット」や組織図、校務分掌表等に明記している。
観点7	意思決定がより効率的・効果的に行われるよう、運営委員会や職員会議で扱う議題の整理や、職員会議による周知・徹底の工夫を行うこと	・運営委員会の活用や行事情報等の周知方法の工夫により職員会議を効率化するとともに、運営委員会や職員会議で扱う議題を整理し、校長の意思決定の迅速化・効率化を図っている。また、各種会議の効率化・縮減等の工夫により、子どもと向き合う時間の確保に努めている。	・運営委員会の活用や行事情報等の周知方法の工夫により職員会議を効率化するとともに、運営委員会や職員会議で扱う議題を整理し、校長の意思決定の迅速化・効率化を図っている。	・運営委員会の活用や行事情報等の周知方法の工夫により職員会議の効率化を図っている。
観点8	主任制度・主任手当の趣旨が伝わるよう、人事異動に係る職員面談や年3回の目標管理面談等の中で、主任手当の拠出の状況について確認するとともに、法令の趣旨に則った指導を行うこと		・法令の趣旨に則り、全教職員に主任制度・主任手当の趣旨を周知するとともに、人事異動に係る面談や目標管理面談の中で指導を行っている。	・法令の趣旨に則り、主任制度・主任手当の趣旨を周知している。